

工場探訪 vol.5

今話題の「工場見学」。
ろうきん会員さんの「ものづくりの現場」におじゃまします!

水を育む森づくりから考えた、自然共生型工場

サントリー天然水 奥大山ブナの森工場

奥大山の
おいしい水をお届け
しています



サントリープロダクツ労働組合
奥大山支部 執行委員長
木山啓史さん

コンビニやスーパーでおなじみのサントリーの天然水。自然豊かな奥大山にある同社の天然水生産工場を訪れ、水を守り、育む取り組みから、安全でおいしい天然水の製造工程までを見学しました。

サントリーの天然水はほどよいミネラル分を含んだ軟水です。かつお・昆布のだしをとる時や、お茶を入れる時、赤ちゃんのミルク作りにもご利用いただけます。



豊かな自然との共生をめざした、サントリー第三の水のふるさと

降り注ぐ雨や雪を蓄え、およそ20年かけておいしい水に磨き上げる地層は、いわば天然のろ過装置。そんな自然の恵みを未来へ手渡すため、サントリーでは自然共生型の天然水工場を、日本有数の名水の地・奥大山に設置しています。

ちなみに天然水奥大山ブナの森工場は、南アルプス・阿蘇に続くサントリー第三の天然水工場。工場を設置するにあたっては、地層や地下水の流れの調査を行い、工場設置後も生態系の研究や適切な間伐といった取り組みが行われ、まわりの環境や自然を壊さず、それに溶け込んだ形で、森を守り、水を育てていくような配慮がなされています。

また、工場そのものにも環境にやさしいエネルギー、「LNG(液化天然ガス)」を採用したり、自然の力を活用する「雪室」や生産工程で出る排熱を利用した「蓄熱システム」を設けるなど限りある資源を有効に利用しています。



TOPICS

水専門の官能検査員とは?

天然水奥大山ブナの森工場では科学的な検査だけでなく、水のエキスパートである官能検査員が目・鼻・舌をフルに使って、水に異常がないかを厳しくチェック。



サントリー奥大山の天然水ができるまで

機械化されたラインのもと、安全な製品づくりを追求!

1 井戸からくみ上げた水をタンクに貯めてろ過・殺菌

井戸からくみ上げた原水は、毎日、検査を行い、徹底的に水質をチェックしています。検査後はキメ細かいフィルターを通してろ過。さらにミネラル分や味わいを損なうことなく、高温で瞬時に殺菌します。



2 プリフォームを膨らませて工場内でペットボトルを成形



試験管のような形をした「プリフォーム」と呼ばれる容器を膨らませてペットボトルを成型。工場内でペットボトルに成型することで、異物混入を防ぎ、安全・安心を追求した製品づくりを実現しています。



なんと!
これがペットボトルに

サントリープロダクツ労働組合
奥大山支部 書記長
永井春華さん

中・四国、近畿が
主な出荷先です



4 ラベルを貼り 梱包し出荷されます

「ラベラー」という機械でラベルをまかれたボトルは検査機を経て箱詰め工程へ。「ケーサー」と呼ばれる機械が箱詰めを行い、コンビニやスーパーなどへ出荷されます。製造年月日や流通状況を把握するトレーサビリティも徹底しています。



1分間に
2Lボトルを
最大365本
ボトリング!

3 高度な無菌環境の「クリーン・チャンバー」内でボトリング



高度な無菌環境を保つことができる「クリーン・チャンバー」は4つに分かれていて、それぞれペットボトルの「殺菌」、「洗浄」、「ボトリング」、「キャップ締め」までを行っています。また、「クリーン・チャンバー」は外部より高めの気圧となっており、外から塵が入ってこないように工夫されています。

ここがスゴイ!

ゆきむろ 自然のチカラを活用 雪室

11月下旬から雪が降りはじめ、真冬には2~3mの積雪となる奥大山。工場内に設置された「雪室」には冬に積もった雪が貯蔵され、冬場は「生産装置冷却」、「排水冷却」として、夏場は「冷房」として利用されています。最大250トンもの雪が貯蔵できる「雪室」には、夏場でも半分くらいの雪が残っているそうです。また、サントリーの天然水工場の中でも、「雪室」があるのは奥大山だけ!



取材協力/
サントリー天然水 奥大山ブナの森工場
<http://www.suntory.co.jp/factory/okudaisen/>
鳥取県日野郡江府町大字御机字笠良原1177
見学ご希望の方は ☎0859-75-6114 (予約受付時間 9:00~16:00)